



# 2008年3月期決算説明会

- 2008年3月期決算概要  
(TIS・インテックホールディングス)
- 2009年3月期決算見通し  
(ITホールディングス)
- ITホールディングスの経営理念・経営方針・経営戦略



IT Holdings

## 2008年3月期決算概要

# 2008年3月期決算 サマリー( TIS + インテックホールディングス )



単位:百万円

2008年3月期	TIS連結+インテックHD連結	
	金額	構成比
売上高	322,412	100.0%
営業利益	19,973	6.2%
経常利益	19,947	6.2%
当期純利益	8,673	2.7%

2008年3月期	TIS連結	
	金額	構成比
売上高	199,261	100.0%
アウトソーシング	80,844	40.6%
ソフトウェア開発	92,655	46.5%
ソリューション	22,026	11.1%
その他	3,735	1.8%
営業利益	10,432	5.2%
経常利益	11,170	5.6%
当期純利益	4,153	2.1%

2008年3月期	インテックHD連結	
	金額	構成比
売上高	123,151	100.0%
情報・通信	114,526	93.0%
リース	5,070	4.1%
不動産賃貸	1,848	1.5%
その他	1,705	1.4%
営業利益	9,541	7.7%
経常利益	8,777	7.1%
当期純利益	4,520	3.7%

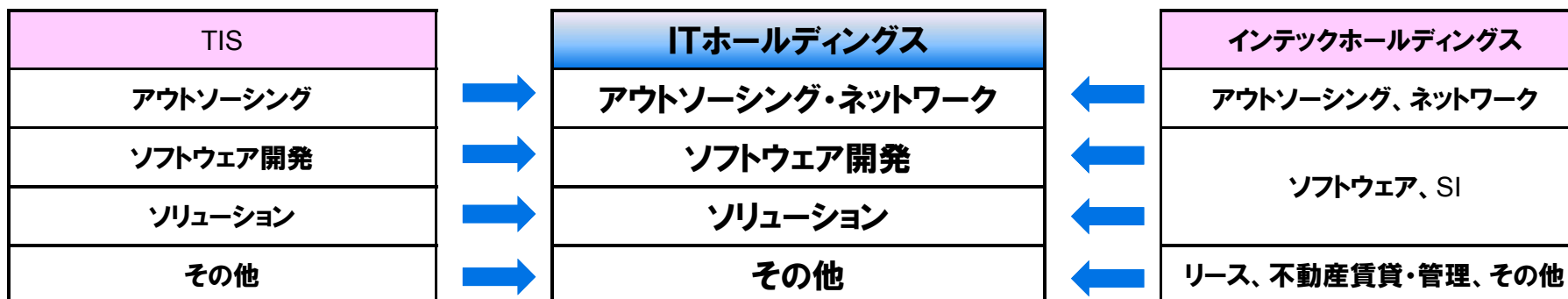
※ 上記数値はTIS連結数値とインテックHD連結数値を単純合算したものです。

単位:百万円

2008年3月期	TIS連結+インテック単体	TIS連結	インテック単体
前期末受注残高 ①	49,002	36,909	12,093
当期受注高 ②	150,924	109,616	41,308
当期売上高 ③	134,700	92,655	42,045
当期末受注残高 ①+②-③	65,227	53,870	11,357

※ 上記数値はTIS連結数値とインテック単体数値を単純合算したものです。

## 【ITホールディングスにおけるセグメント構成】



# 2008年3月期決算 サマリー(TIS)

単位:百万円

TIS連結	2007年3月期		2008年3月期		前期比増減	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	増減率
売上高	211,581	100.0%	199,261	100.0%	▲ 12,320	▲ 5.8%
アウトソーシング	75,553	35.7%	80,844	40.6%	5,290	7.0%
ソフトウェア開発	102,944	48.7%	92,655	46.5%	▲ 10,289	▲ 10.0%
ソリューション	28,028	13.2%	22,026	11.1%	▲ 6,001	▲ 21.4%
その他	5,055	2.4%	3,735	1.8%	▲ 1,320	▲ 26.1%
営業利益	▲ 0	▲ 0.0%	10,432	5.2%	10,433	—
経常利益	1,216	0.6%	11,170	5.6%	9,954	818.4%
当期純利益	▲ 818	▲ 0.4%	4,153	2.1%	4,972	—

通期計画		計画比差異	
金額	構成比	金額	差異率
200,000	100.0%	▲ 738	▲ 0.4%
80,000	40.0%	844	1.1%
92,500	46.3%	155	0.2%
24,000	12.0%	▲ 1,973	▲ 8.2%
3,500	1.7%	235	6.7%
8,000	4.0%	2,432	30.4%
8,800	4.4%	2,370	26.9%
3,200	1.6%	953	29.8%

\*通期計画は平成19年10月26日に修正したものです。

単位:百万円

TIS単体	2007年3月期		2008年3月期		前期比増減	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	増減率
売上高	109,594	100.0%	97,412	100.0%	▲ 12,181	▲ 11.1%
アウトソーシング	30,182	27.5%	31,488	32.3%	1,306	4.3%
ソフトウェア開発	60,370	55.1%	52,023	53.4%	▲ 8,346	▲ 13.8%
ソリューション	19,042	17.4%	13,900	14.3%	▲ 5,141	▲ 27.0%
営業利益	▲ 4,020	▲ 3.7%	1,614	1.7%	5,634	—
経常利益	▲ 3,398	▲ 3.1%	1,966	2.0%	5,364	—
当期純利益	▲ 1,269	▲ 1.2%	471	0.5%	1,740	—

通期計画		計画比差異	
金額	構成比	金額	差異率
100,000	100.0%	▲ 2,587	▲ 2.6%
31,000	31.0%	488	1.6%
54,000	54.0%	▲ 1,976	▲ 3.7%
15,000	15.0%	▲ 1,099	▲ 7.3%
1,000	1.0%	614	61.4%
1,200	1.2%	766	63.8%
400	0.4%	71	17.8%

\*通期計画は平成19年10月26日に修正したものです。

## <売上高>

アウトソーシング: TISで主要顧客向けが増加したほか、アグレックスのBPOが好調に推移し、前期比増収となりました。  
 ソフトウェア開発: TISで大型案件が開発段階のピークを越えた影響が大きく前期比減収。また、一部が4月以降の売上計上となったため計画を若干下回りました。  
 ソリューション: TISで前期にあった一過性の案件がなくなったことから前期比減収となりました。

## <営業利益>

下期は大型案件が見直し後の計画に沿って推移。当該大型案件以外の開発案件や子会社業績が堅調に推移したことから、計画を上回りました。

# 2008年3月期決算 サマリー(インテックホールディングス)

単位:百万円

インテックHD連結	2007年3月期		2008年3月期		前期比増減	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	増減率
売上高	115,483	100.0%	123,151	100.0%	7,668	6.6%
情報・通信	105,470	91.3%	114,526	93.0%	9,055	8.6%
リース	6,447	5.6%	5,070	4.1%	▲ 1,376	▲ 21.4%
不動産賃貸	1,716	1.5%	1,848	1.5%	132	7.7%
その他	1,849	1.6%	1,705	1.4%	▲ 143	▲ 7.7%
営業利益	9,588	8.3%	9,541	7.7%	▲ 46	▲ 0.5%
経常利益	8,391	7.3%	8,777	7.1%	386	4.6%
当期純利益	4,960	4.3%	4,520	3.7%	▲ 440	▲ 8.9%

※インテックHD連結の2008年3月期通期計画 : 売上高125,000百万円、営業利益10,000百万円、経常利益9,100百万円、当期純利益5,800百万円

単位:百万円

インテック単体	2007年3月期		2008年3月期		前期比増減	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	増減率
売上高	95,572	100.0%	98,496	100.0%	2,923	3.1%
アウトソーシング	21,755	22.8%	21,526	21.9%	▲ 229	▲ 1.1%
ソフトウェア	39,897	41.7%	42,044	42.7%	2,147	5.4%
SI	23,452	24.5%	25,116	25.5%	1,664	7.1%
ネットワーク	10,467	11.0%	9,809	10.0%	▲ 658	▲ 6.3%
営業利益	7,630	8.0%	7,709	7.8%	79	1.0%
経常利益	6,517	6.8%	6,904	7.0%	386	5.9%
当期純利益	▲ 2,325	▲ 2.4%	1,730	1.8%	4,056	—

## <売上高>

リース事業の一部整理などの影響がありましたが、主力の金融業、製造業、流通・サービス業でソフトウェア分野およびシステム・インテグレーション分野が概ね堅調に推移し、前期比6.6%増収となりました。

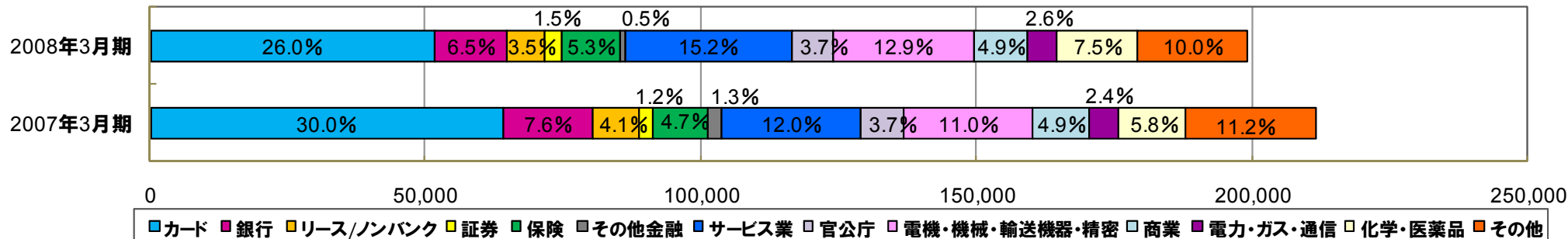
## <営業利益>

ほぼ前年並みとなりました。

# 2008年3月期決算 業種別売上高(TIS)

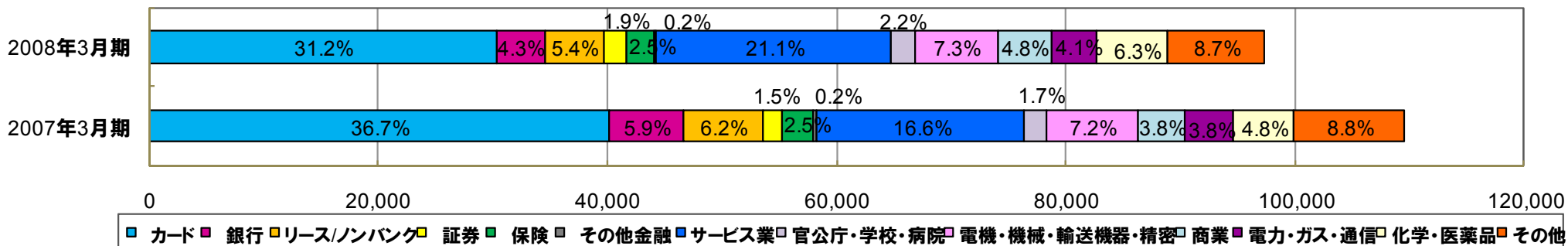
## TIS連結

単位:百万円



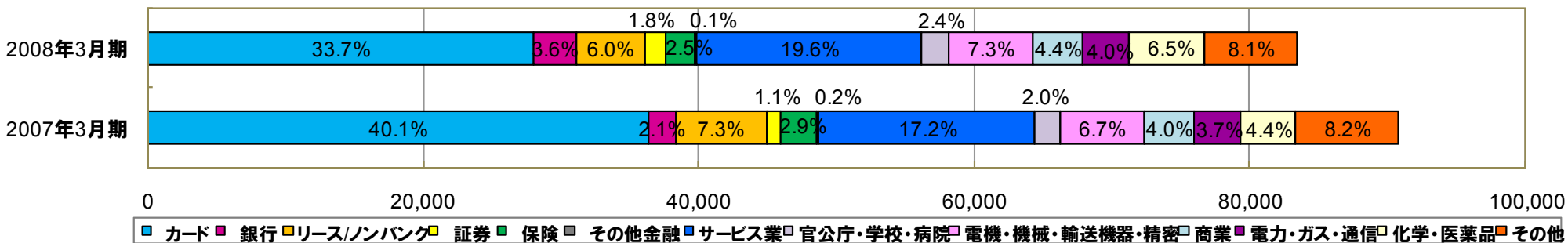
## TIS単体

単位:百万円



## 参考:TIS単体(開発+運用)比較

単位:百万円

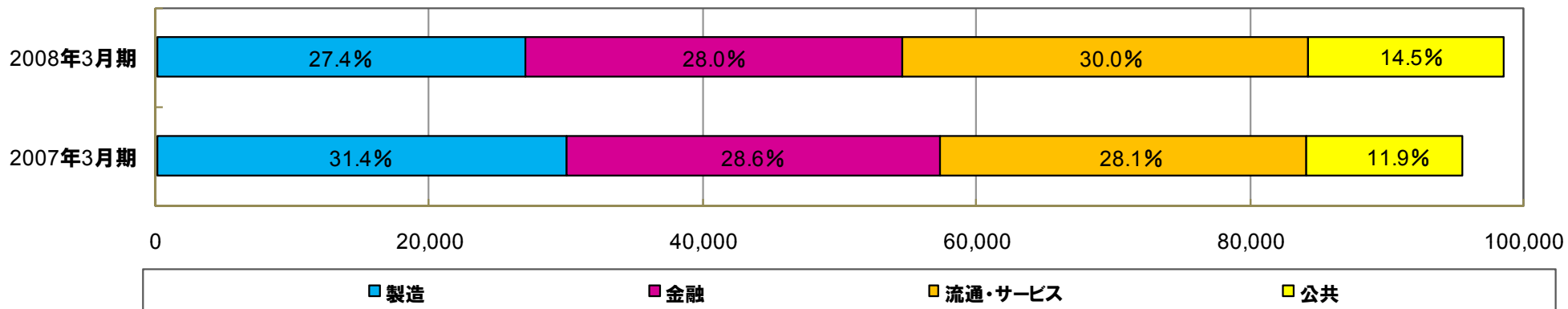


# 2008年3月期決算 業種別売上高(インテック)



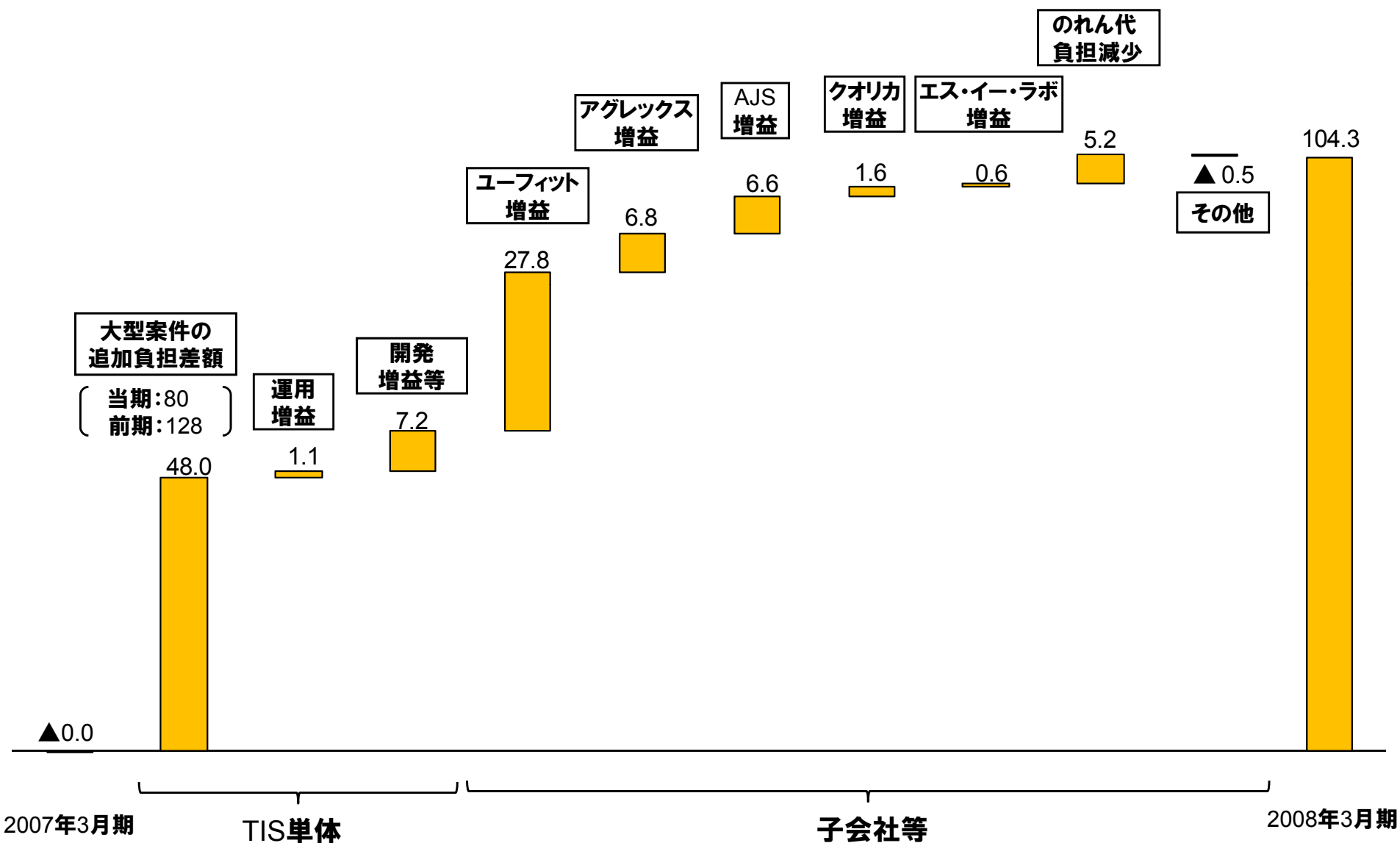
単位:百万円

インテック単体



# 2008年3月期決算 営業利益増減分析(TIS)

単位：億円

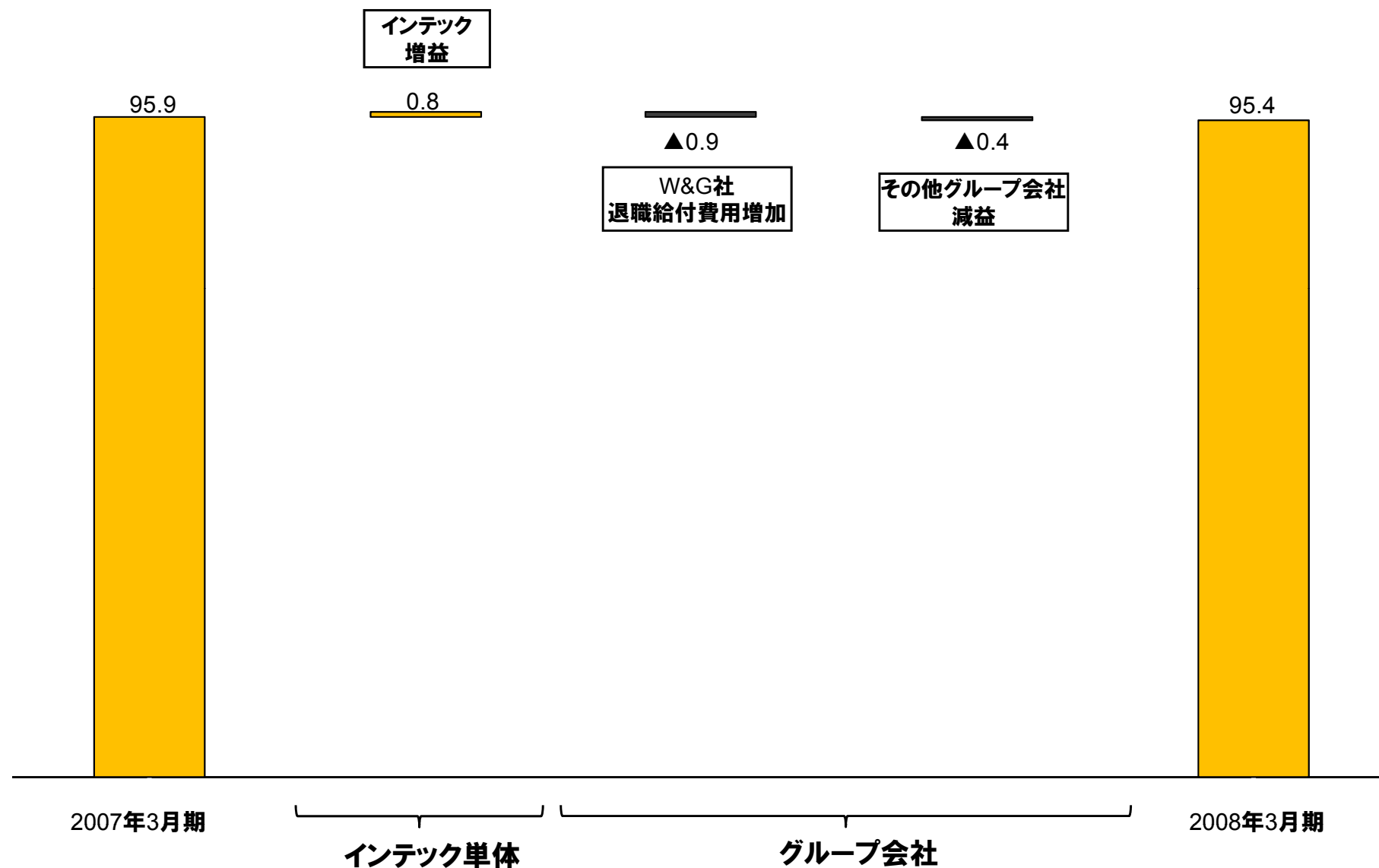




# 2008年3月期決算 営業利益増減分析(インテックホールディングス)



単位：億円



# 2008年3月期決算 受注高・受注残高(TIS)

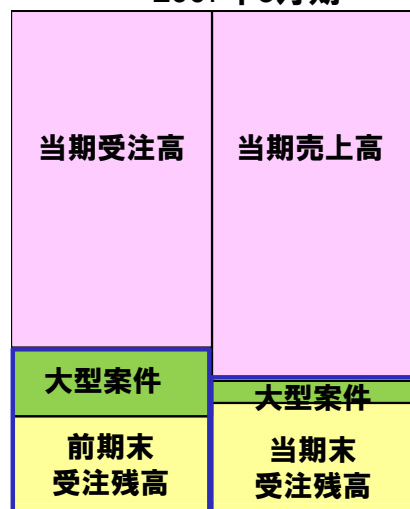
単位:百万円

TIS連結	2007年3月期	2008年3月期	前期比増減	
前期末受注残高①	46,473	36,909	▲ 9,564	▲ 20.6%
(うち、大型案件以外)	26,973	30,888	3,915	14.5%
当期受注高②	93,380	109,616	16,236	17.4%
当期売上高③	102,944	92,655	▲ 10,289	▲ 10.0%
当期末受注残 ①+②-③	36,909	53,870	16,960	46.0%
(うち、大型案件以外)	30,888	40,088	9,200	29.8%

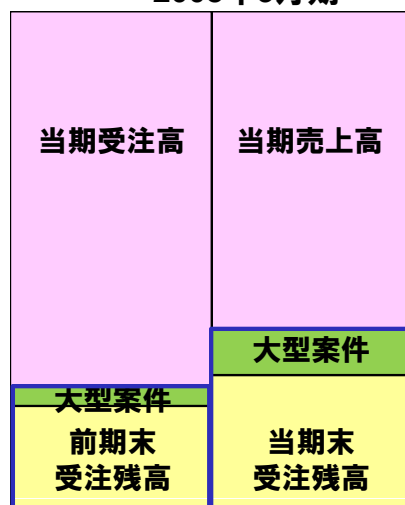
単位:百万円

TIS単体	2007年3月期	2008年3月期	前期比増減	
前期末受注残高①	31,210	21,776	▲ 9,434	▲ 30.2%
(うち、大型案件以外)	11,710	15,755	4,045	34.5%
当期受注高②	50,936	67,468	16,531	32.5%
当期売上高③	60,370	52,023	▲ 8,346	▲ 13.8%
当期末受注残高①+②-③	21,776	37,221	15,444	70.9%
(うち、大型案件以外)	15,755	23,440	7,685	48.8%

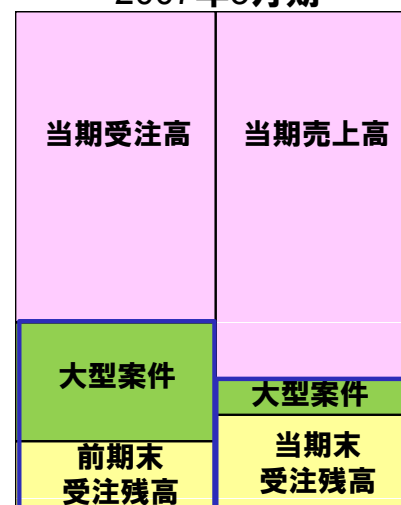
2007年3月期



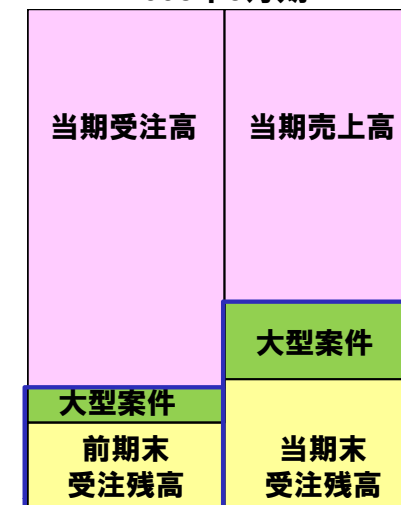
2008年3月期



2007年3月期



2008年3月期



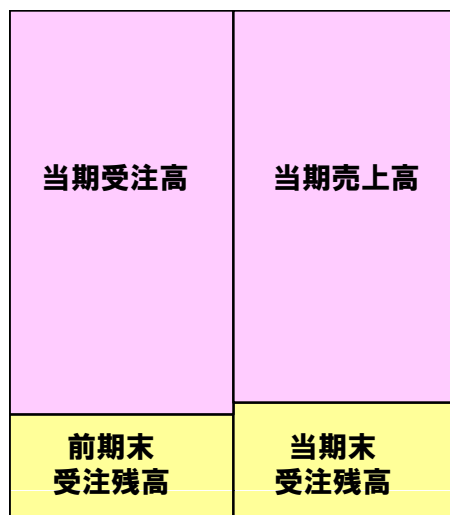
# 2008年3月期決算 受注高・受注残高(インテック)



単位:百万円

インテック単体	2007年3月期	2008年3月期	前期比増減	
前期末受注残高 ①	10,899	12,093	1,195	11.0%
当期受注高 ②	41,092	41,308	216	0.5%
当期売上高 ③	39,897	42,045	2,148	5.4%
当期末受注残高 ①+②-③	12,093	11,357	▲ 737	▲ 6.1%

2007年3月期



2008年3月期



# 2008年3月期決算 主要グループ会社の状況(旧TISグループ)



## ユーフィット

TIS出資比率70.4% クレジットカード、信販などに強み。運用中心。

### 2008年3月期実績

- ・金融系顧客の業界環境変化に伴う投資抑制や、公共系顧客における大型開発案件の終了に伴う落ち込みもあるも、新規案件の獲得により、売上高は前期比並みに。
- ・クレジットカード会社大型案件等の不採算解消、運用コストの削減、諸経費の削減等により大幅増益。
- ・中長期的な視点から顧客基盤の拡大に向け、営業体制強化。

### 2009年3月期見通し

- ・銀行等主要顧客のシステム統合に伴う運用・保守案件の減少、金融系顧客の大型開発案件終了の影響を受け、前期比減収の計画。
- ・利益面においても、上記売上減による減少および営業の強化や設備投資の拡大等による経費増により減益となる見込み。

	2007年3月期	2008年3月期	2008年3月期	2009年3月期
売上高	40,900	38,000	40,900	36,730
営業利益	960	2,300	3,740	2,800
経常利益	1,170	2,500	3,850	2,890
当期純利益	830	1,400	2,300	1,660

単位:百万円

(計画)

(実績)

(計画)

## アグレックス

TIS出資比率50.6% 日本のBPOビジネスに関するリーディングカンパニー  
東証第1部

### 2008年3月期実績

- ・保険金未払い・過払い問題に端を発した保険各社の契約是正業務や不明住所調査業務、保険金再査定業務といったより高度な業務に受託領域を拡大。
- ・データクレンジング・名寄せツール「TRILLIUM」やERPソフト「LX(旧:BPCS)」の販売が増加。
- ・金融業界のシステム統合特需や更新需要を受けて、保険・銀行・証券等からの受注が引き続き好調に推移。
- ・アグレックスファインテクノ株式会社の売上が通期で寄与。

### 2009年3月期見通し

- ・保険会社の契約是正業務受託等を通じて培ったノウハウを活かして業務の拡大・深耕を図る。
- ・競争力のあるCRM系ソフトの販売増強を図るとともに、これを活用したシステム構築や周辺開発、保守サポートなどへと発展させる。
- ・金融業界向けシステム開発は、生損保や銀行等を中心に引き続き高い需要が見込まれる。
- ・登録管理ネットワーク株式会社(2008年3月子会社化)の業績が通期で寄与。

※上期には多摩地区の2センターの統合・拡張や本社移転を予定

	2007年3月期	2008年3月期	2008年3月期	2009年3月期
売上高	23,027	25,500	25,558	29,000
営業利益	1,400	1,940	2,079	2,300
経常利益	1,304	1,950	2,123	2,310
当期純利益	668	1,050	998	1,170

単位:百万円

(計画)

(実績)

(計画)

# 2008年3月期決算 主要グループ会社の状況(旧TISグループ)



## クオリカ

TIS出資比率80%(コマツ20%) 製造業、流通・サービス業に強み

### 2008年3月期実績

#### 【増収増益】

- ・建機大手のIT投資が活況。増収増益に寄与。
- ・大手製造業向け大型プロジェクトが増収増益に寄与。

### 2009年3月期見通し

#### 【増収計画】

- ・引き続き、建機大手向け開発、運用が成長を牽引。
- ・建機大手向けシステムの海外展開支援の拡大を進める。
- ・大手製造業向け大型プロジェクトが拡大。

	2007年3月期	2008年3月期	2008年3月期	2009年3月期
売上高	16,600	18,000	17,973	20,000
営業利益	1,200	1,200	1,355	1,360
経常利益	1,200	1,200	1,356	1,360
当期純利益	620	630	716	730

単位：百万円

(計画)

(実績)

(計画)

## AJS

TIS出資比率51%(旭化成49%) 製造業、医療分野を中心に展開

### 2008年3月期実績

- ・旭化成グループ向け事業はシステム運用・保守が堅調。
- ・医療システム事業分野は、製品の機能拡張、低価格化を図ったものの販売チャンネル開拓が遅れ、受注に苦戦。
- ・売上は前期比5%減となったものの、生産性・品質向上、コスト削減で営業利益、経常利益、当期利益の全てで前期より大幅増加。

### 2009年3月期見通し

- ・旭化成グループ向け事業は、引続き重要会社、重要案件に注力。
- ・医療システム事業分野は、販売チャンネルの深耕と新製品開発に経営資源を投入。
- ・引き続き、生産性・品質向上、コスト削減を図り、実力ベースで前期を上回る利益を計画。

	2007年3月期	2008年3月期	2008年3月期	2009年3月期
売上高	10,460	10,670	9,930	10,800
営業利益	250	600	910	500
経常利益	220	600	900	470
当期純利益	▲70	520	540	470

単位：百万円

(計画)

(実績)

(計画)

# 2008年3月期決算 主要グループ会社の状況(旧TISグループ)



## エス・イー・ラボ

IBM iSeries関連システムの構築に実績

### 2008年3月期実績

#### 【増収増益】

- SEサービス事業、パッケージ事業及び情報機器等事業が計画通りに推移。  
特に、パッケージ事業において新たに投入した商品の販売が堅調に推移したこと、  
情報機器等事業の販売が順調に推移したことにより業績伸長。

### 2009年3月期見通し

- 選別受注とプロジェクト管理の徹底により、SEサービス事業の収益性を向上。
- 新規事業(セキュリティサービス・情報共有基盤分野)のサービス定着と拡大、  
運用・保守サービスの拡充による収益拡大。

	2007年3月期	2008年3月期	2008年3月期	2009年3月期
売上高	2,811	3,050	3,279	3,300
営業利益	105	120	169	160
経常利益	107	120	166	160
当期純利益	36	59	94	65

単位：百万円

(計画)

(実績)

(計画)



IT Holdings

## 2009年3月期決算見通し

# 2009年3月期 通期業績予想(ITホールディングス)



単位:百万円

ITホールディングス連結	2008年3月期実績				2009年3月期計画				前期比増減	
	金額			構成比	金額			構成比	金額	増減率
	上期	下期	通期		上期	下期	通期			
売上高	152,278	170,134	322,412	100.0%	160,000	180,000	340,000	100.0%	17,588	5.5%
アウトソーシング・ネットワーク	—	—	—	—	58,500	61,500	120,000	35.3%	—	—
ソフトウェア開発	—	—	—	—	81,500	97,000	178,500	52.5%	—	—
ソリューション	—	—	—	—	16,500	18,000	34,500	10.1%	—	—
その他	—	—	—	—	3,500	3,500	7,000	2.1%	—	—
営業利益	2,553	17,420	19,973	6.2%	8,000	14,000	22,000	6.5%	2,027	10.1%
経常利益	2,563	17,384	19,947	6.2%	8,300	13,700	22,000	6.5%	2,053	10.3%
当期純利益	1,198	7,476	8,673	2.7%	3,900	7,100	11,000	3.2%	2,327	26.8%

※ 2008年3月期実績数値はTIS連結数値とインテックHD連結数値を単純合算したものであり、前期比増減もこれを前提として算出しています。



# 2009年3月期 通期業績予想(旧TISグループ)

単位:百万円

旧TISグループ	2008年3月期実績				2009年3月期計画				前期比増減	
	金額			構成比	金額			構成比	金額	増減率
	上期	下期	通期		上期	下期	通期			
売上高	95,592	103,669	199,261	100.0%	102,000	111,000	213,000	100.0%	13,738	6.9%
アウトソーシング・ネットワーク	39,921	40,922	80,844	40.6%	41,000	41,000	82,000	38.5%	1,156	1.4%
ソフトウェア開発	42,432	50,223	92,655	46.5%	49,000	58,000	107,000	50.2%	14,345	15.5%
ソリューション	11,296	10,730	22,026	11.1%	10,500	10,500	21,000	9.9%	▲1,026	▲4.7%
その他	1,942	1,793	3,735	1.8%	1,500	1,500	3,000	1.4%	▲735	▲19.7%
営業利益	▲1,077	11,509	10,432	5.2%	4,300	7,700	12,000	5.6%	1,568	15.0%
経常利益	▲640	11,810	11,170	5.6%	5,000	7,600	12,600	5.9%	1,430	12.8%
当期純利益	▲1,300	5,454	4,153	2.1%	2,100	3,900	6,000	2.8%	1,847	44.5%

単位:百万円

TIS	2008年3月期実績				2009年3月期計画				前期比増減	
	金額			構成比	金額			構成比	金額	増減率
	上期	下期	通期		上期	下期	通期			
売上高	45,954	51,458	97,412	100.0%	51,000	60,000	111,000	100.0%	13,588	13.9%
アウトソーシング・ネットワーク	15,427	16,060	31,488	32.3%	16,500	16,500	33,000	29.7%	1,511	4.8%
ソフトウェア開発	23,521	28,502	52,023	53.4%	28,000	37,000	65,000	58.6%	12,977	24.9%
ソリューション	7,005	6,895	13,900	14.3%	6,500	6,500	13,000	11.7%	▲900	▲6.5%
営業利益	▲4,330	5,944	1,614	1.7%	1,000	3,500	4,500	4.1%	2,886	178.8%
経常利益	▲3,927	5,893	1,966	2.0%	1,600	3,400	5,000	4.5%	3,034	154.3%
当期純利益	▲2,403	2,875	471	0.5%	1,000	2,000	3,000	2.7%	2,529	536.9%

# 2009年3月期 通期業績予想(旧インテックホールディングス)

単位:百万円

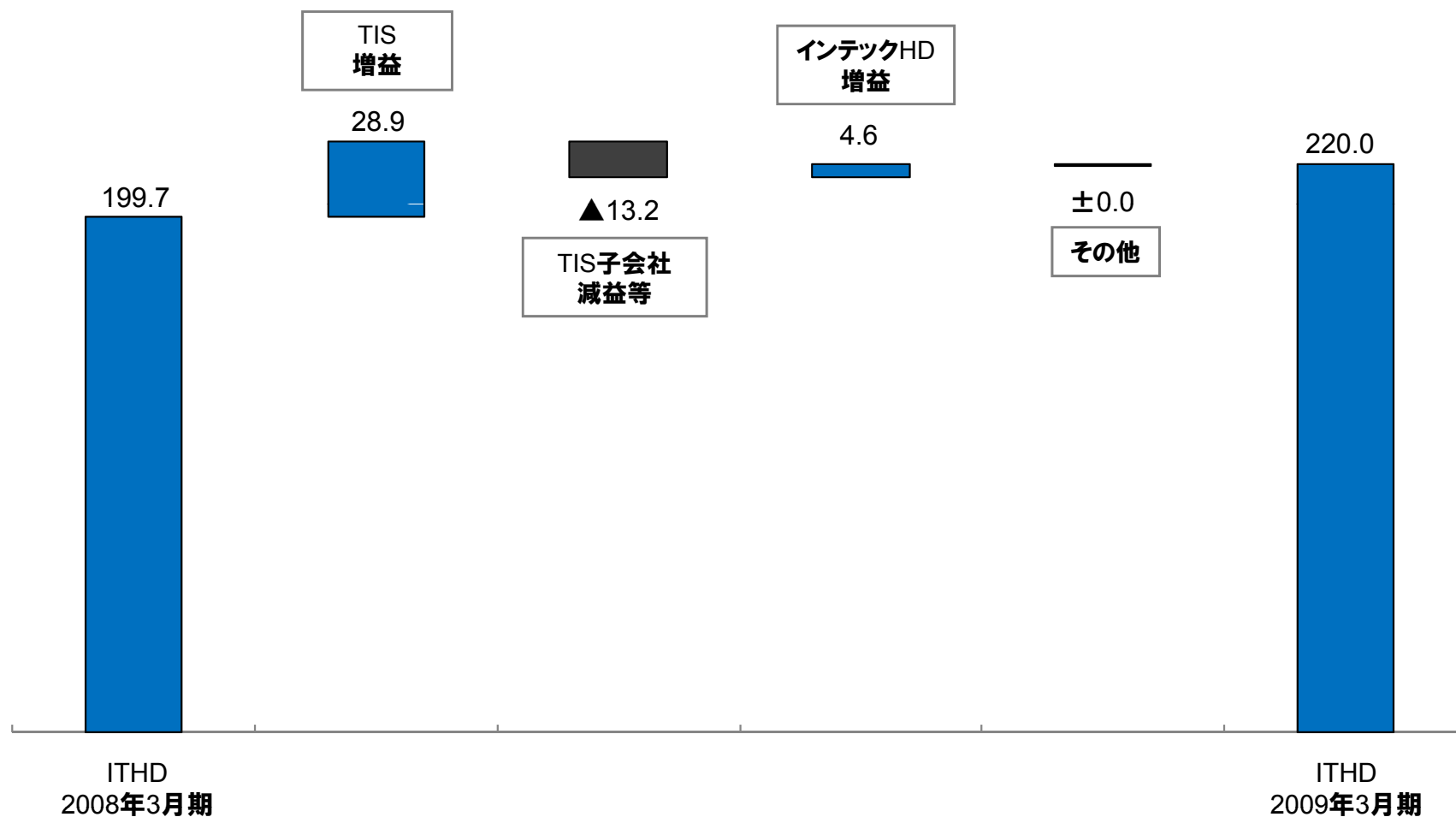
旧インテックHD	2008年3月期実績				2009年3月期計画				前期比増減	
	金額			構成比	金額			構成比	金額	増減率
	上期	下期	通期		上期	下期	通期			
売上高	56,686	66,465	123,151	100.0%	58,000	69,000	127,000	100.0%	3,849	3.1%
アウトソーシング・ネットワーク	—	—	—	—	17,500	20,500	38,000	29.9%	—	—
ソフトウェア開発	—	—	—	—	32,500	39,000	71,500	56.3%	—	—
ソリューション	—	—	—	—	6,000	7,500	13,500	10.6%	—	—
その他	—	—	—	—	2,000	2,000	4,000	3.1%	—	—
営業利益	3,630	5,911	9,541	7.7%	3,700	6,300	10,000	7.9%	459	4.8%
経常利益	3,203	5,574	8,777	7.1%	3,300	6,100	9,400	7.4%	623	7.1%
当期純利益	2,498	2,022	4,520	3.7%	1,800	3,200	5,000	3.9%	480	10.6%

単位:百万円

インテック	2008年3月期実績				2009年3月期計画				前期比増減	
	金額			構成比	金額			構成比	金額	増減率
	上期	下期	通期		上期	下期	通期			
売上高	44,662	53,834	98,496	100.0%	47,000	57,000	104,000	100.0%	5,504	5.6%
アウトソーシング	10,718	10,808	21,526	21.9%	10,500	12,000	22,500	21.6%	974	4.5%
ソフトウェア	18,415	23,630	42,044	42.7%	20,000	24,500	44,500	42.8%	2,456	5.8%
SI	10,730	14,387	25,116	25.5%	12,000	15,000	27,000	26.0%	1,884	7.5%
ネットワーク	4,799	5,010	9,809	10.0%	4,500	5,500	10,000	9.6%	191	1.9%
営業利益	2,803	4,906	7,709	7.8%	3,100	5,400	8,500	8.2%	790	10.2%
経常利益	2,350	4,554	6,904	7.0%	2,550	5,050	7,600	7.3%	696	10.1%
当期純利益	▲1,039	2,769	1,730	1.8%	1,290	2,710	4,000	3.8%	2,269	131.2%

# 2009年3月期 ITホールディングス 通期営業利益増減分析

単位：億円



## 日本の情報サービス産業概況

### 【ポジティブ要因】

#### ・金融関連特需

2008年以降は、メガバンクの統合や大規模なシステム構築は落ち着くとみられる。生損保業界での基幹システムの再構築や、金融全般にフロントエンドのシステム開発ニーズは堅調であることから、市場拡大を牽引する要素は2009年頃まで残るとみている。

#### ・製造業を中心としたグローバル化への投資は継続

製造、物流、営業／マーケティングといった企業システムの再構築や連携が促進される。製品ライフサイクル管理(PLM)、ERP、顧客関係管理(CRM)といった各種エンタプライズ・アプリケーションの構築需要を喚起するであろう。

#### ・サービス提供方法の多様化

ASP／サービスとしてのソフトウェア(SaaS)は中規模企業層の開拓に効果を発揮すると考えられ、領域はまだ限定的ながら、利用の拡大が期待できる。また、地銀の共同センターに代表される共同型のアウトソーシング・サービスの需要も拡大していくとみている。

### 【ネガティブ要因】

#### ・ユーザー企業のIT投資の伸び悩み

今後の経済環境によっては、新規開発プロジェクトへの投資など、IT投資に対する手控えが発生する可能性がある。

#### ・ユーザー企業の案件の峻別

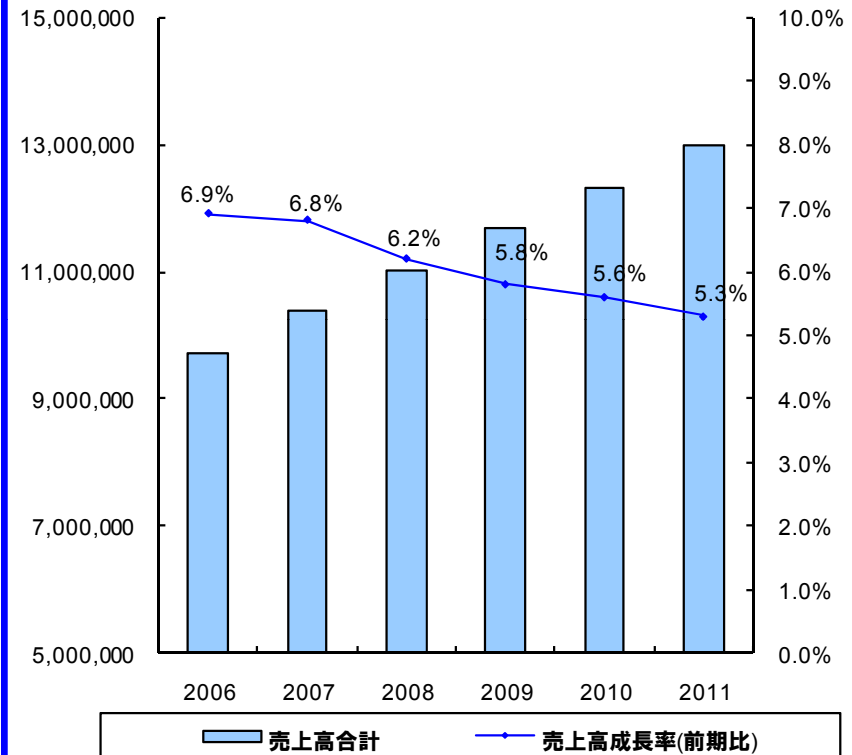
ユーザー企業の中には確実な投資対効果獲得や大規模案件に伴うリスク低減のため、案件に優先順位を付け峻別する傾向が見られる。優先度の低いプロジェクトについては、ニーズは高くとも支出につながらないケースも発生する。

#### ・エンジニア単価の下落傾向の継続

金融関係の開発がピークアウトする2008年以降は、再び平均水準が下落に転じることが懸念される。

## 日本の情報サービス産業成長予測

単位:百万円



※ガートナー2007年下期ITサービス市場規模予測よりITHD作成

# 業種別顧客動向 (1/2)

## 《金融分野》

業種	業界の一般的な動向	ITホールディングスグループへの影響
銀行	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メガバンクの統合など事業再編完了に伴うシステム投資の再開。</li> <li>・業際規制や代理店規制への緩和政策に伴う銀行での新規開発ニーズ。</li> <li>・データセンター・アウトソーシングに対するニーズの拡大。</li> <li>・金融業界向け次世代標準基幹システム開発の進展。</li> </ul>	<p>大手顧客の基幹システムの更新に関する投資状況は高水準にあり、今後減傾向に向かうと認識している。一方で、投資に関するトピックスが多くあり、引き続き高原状態を維持と予測。</p>
クレジットカード	<ul style="list-style-type: none"> <li>・貸金業法の改正に伴う経営環境の変化。</li> <li>・法改正への対応ニーズが高まる一方、収益力の低下を受けたシステム投資予算の縮小傾向もみられる。</li> <li>・業界再編に伴うシステム統合や新サービスに対応した次世代システムへの更新は、引き続き重要課題の一つ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大手クレジットカード会社の基幹システムの更新案件が収束に向かう。</li> <li>・一方、別の既存顧客のシステム更新が控えるなど、投資ニーズは引き続き強く、エンジニアの稼働状態は高水準で推移。</li> </ul>
保険	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保険業務におけるビジネス・プロセスの効率化／標準化や、インターネットを駆使した新保険商品の開発／提供、コンタクトセンターなど顧客サービスの品質向上に関する新規アプリケーション開発への堅調な需要。</li> <li>・行政指導、規制に伴う新たなシステム構築需要。</li> <li>・不払い対応によるシステム構築およびBPO需要の高まり。</li> </ul>	<p>大手主要顧客のIT投資の本格化が予想される。従前から当分野でのコンサルタントの育成や、ソリューション開発などに着手していたことが奏功し、本格寄与が始まる。</p>
リース	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年まで堅調だった企業の設備投資が一巡。</li> <li>・主力の情報通信機器などの需要の落ち込みなどから、リース取扱高は2007年6月から9カ月連続で前年割れ。</li> <li>・2009年3月期から適用の会計基準変更も不透明要因。</li> </ul>	<p>大手主要顧客の動向に大きく左右されるが、パートナーシップの強化による投資ニーズの早期把握などに努めることで、安定的に推移するものと予測。</p>
証券	<ul style="list-style-type: none"> <li>・制度変更に伴うシステム更改。</li> <li>・新商品への対応。</li> <li>・株券の電子化対応。</li> <li>・対応必須のIT投資課題は多いものの、業界をとりまく収益環境の悪化が顕著。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業毎に、収益環境の悪化の状況とIT投資課題のどちらに重きを置くかの姿勢が分かれ始める。</li> </ul>

注記1 本資料は、当社顧客における業界別のIT投資に関する傾向をまとめたものであり、一般の状況と異なる場合があります。

2 当社に与える影響は2008年5月16日時点で当社が判断したものであり、予期しない環境変化などの影響を受けることにより、結果を当社が保証するものではありません。

3 参考文献：日本経済新聞、ガートナー

# 業種別顧客動向 (2/2)

## 《産業分野》

業種	業界の一般的な動向	ITホールディングスグループへの影響
組立系製造 (建機)	<ul style="list-style-type: none"> <li>国際競争力の強化と事業合理化に主眼を置いたソリューションへのニーズの増大。サプライチェーン・マネジメント (SCM)、製品データ管理 (PDM)、生販統合の加速、グローバル・サプライチェーンの最適化への取り組みの増加。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>クオリカでは、建機大手向けシステムの海外展開支援の拡大を進める。</li> <li>受注レベルは主要顧客のIT投資が引き続き堅調であり、高原状態が続くと予測。</li> </ul>
組立系製造 (家電)	<ul style="list-style-type: none"> <li>北京五輪向け商戦が本格化。薄型TVは引き続き販売続伸。</li> <li>白物も国内出荷が堅調に推移しており、高価格商品帯が需要を牽引。</li> <li>直近の円高、株安により、マインドの冷え込みを指摘する意見もある。</li> </ul>	<p>全体の受注レベルに昨年度までのような大きな伸びがあるかについては不透明感もでている。円高や株安の影響により、五輪商戦特需が薄まる可能性もあり。</p>
プロセス系 製造	<ul style="list-style-type: none"> <li>原油高で石油化学製品の主原料、ナフサも高騰し、収益圧迫要因の一つに。</li> </ul>	<p>昨年までに受注した案件の本格的な開発が今年度も続く。</p>
商業・流通 (小売)	<ul style="list-style-type: none"> <li>消費者ニーズへの迅速な対応を目的とした情報系システムへの投資が増加傾向に。</li> <li>店舗システムの刷新などバリューチェーンのフロント部分の改革需要や、オープン系システムへの移行、在庫管理などのバックエンドの効率化、売上チャネルの整備等により、引き続き市場促進材料となる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>当社グループは商業、流通(小売)セクターの中でも、現在特に投資意欲が強い小売に強みをもつ。</li> <li>業界再編進む百貨店では、共同購買や自社カードの発行増による購買促進のためのIT投資が盛ん。</li> </ul>
官公庁	<ul style="list-style-type: none"> <li>(中央)政府主導のIT戦略は新たなフェーズに入ったものの、官公庁の予算額は全般的に引き締め傾向にある。</li> <li>(地方自治体)市町村合併によるIT投資も収束し、全般的にIT支出総額は安定傾向が続く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>北陸地方の地方自治体を中心に、IT投資は安定傾向を堅持。</li> </ul>

注記1 本資料は、当社顧客における業界別のIT投資に関する傾向をまとめたものであり、一般の状況と異なる場合があります。

2 当社に与える影響は2008年5月16日時点で当社が判断したものであり、予期しない環境変化などの影響を受けることにより、結果を当社が保証するものではありません。

3 参考文献: 日本経済新聞、ガートナー



IT Holdings

## ITホールディングスの経営理念・経営方針・経営戦略

## 経営理念

ITホールディングスグループは、  
ITを通じた様々なサービスの提供により  
リーディング企業グループにふさわしい企業市民となり、  
お客様、社員とその家族、株主など  
すべてのステークホルダーから評価いただける  
企業価値の向上を目指します

私たちは、グループの企業と社員が共に高く新しい目標にチャレンジする  
活力ある企業カルチャーを醸成し成長を続けます

私たちは、グループ力を結集し優れた技術力と品質により、  
常に最適をお客様に提供いたします

私たちは、高い企業モラルを堅持し、社会的責任を果たしてまいります



# ITホールディングスの中期経営計画(ロードマップ)

2009年4月スタートの中期経営計画の策定作業を開始



# 中期経営計画の策定

## 基本方針

ITホールディングスグループの目指すべき姿を描き、その具体化に向けた施策を中期経営計画として策定する。

中期経営計画はグループ各社と共有し、各社の2009年3月期以降の経営計画に反映する。

## 施 策

上期

下期

■ 中期経営計画の原案策定



■ グループ各社への原案説明と情報交換



(視点)

- ・ 業界におけるポジショニング
- ・ 事業シナジーの拡大
- ・ 経営効率化
- ・ 海外展開など

ITホールディングスの中期経営計画の確定と、その施策に沿ったグループ各社の経営計画の確定

# 重点施策 ～ クロスセルの推進 ～ アカウントプラン策定・実行

## 基本方針

グループ総合力への期待を活かして、顧客経営層にとってのITパートナーとしての地位の確立を目指す

## 施策

上期

- ターゲット分野の設定（攻める分野の集中化）
- フラッグシップアカウントの選定（3業界・8業種）
  - ・ 金融（銀行、保険、カード）
  - ・ 製造（組立、プロセス）
  - ・ 流通（商社、消費財メーカー、小売）
- アカウントチームの構築
- アカウントプラン策定

下期

- トップセールス推進・営業活動への展開
  - 顧客経営層向けプレゼンテーション
  - トップセールスからのクロスセル商材の営業展開
  - グループ内のコンサルティング機能を活用し、既存商材を越えた、顧客にとって戦略的なソリューションを提案
- 商談モニタリングの仕組み構築

ITサービス市場前年比伸率（ガートナー） ※2007年下期版産業別日本のITサービス市場規模予測・ベストケースから		
（年）	2008	2009
銀行	8.2%	6.7%
保険	7.7%	5.5%
金融（銀行、保険含む）	8.0%	6.4%
製造（組立）	6.8%	6.2%
製造（プロセス）	5.9%	5.9%
産業平均	6.2%	5.8%

攻める（強みをもつ）分野と伸びる分野のバランスがマッチ

# 重点施策 ～ クロスセルの推進 ～ 営業(技術)の融合

## 基本方針

事業会社間で情報・人材・アイデアが流通し、最大限の事業シナジーが発揮される事業シナジーのモデル化を行い、各モデルに対する効果的な施策を実施する

## 施策 (集中化とグループ体営業の促進)

### 上期

- **ITHD型クロスセルモデルの確立  
(集中化・実施済)**
  - 重点ソリューションの1次選定  
(ECセンターfor奉行、SynCube、シンクライアント、  
快速サーチャー、IDM(結人束人)、エフキューブ等)
- **営業活性化策の推進  
(グループ体営業・計画済)**
  - 商品紹介キャラバン(5月)
  - グループソリューションフォーラム開催(6月)

### 下期

- **グループ体プロモーション実施  
(グループ体営業・計画済)**
  - 「FIT2008」(金融国際情報技術展)へのTIS、  
インテック、アグレックス共同出展(2008年10月)
  - 「リテールテックJAPAN 2009」へのグループ出展  
(2009年3月:予定)
- **フラッグシップアカウントへのクロスセル商材の  
提案**
  - トップセールスからの営業展開
- **人材交流**
  - 共同事業、新規事業分野から開始  
(コラボレーション風土の醸成)

# 重点施策 ～ クロスセルの推進 ～ データセンター(DC) 一体運用

## 基本方針

グループが保有しているサービスを体系化し、「得意領域」・「ソリューション」を顧客のニーズによって選択・提案できる仕組みを整備する

## 施策

### 上期

- サービスメニューの再評価
  - リソース計画
  - サービス内容・価格・SLA 等
- クロスセルのための新メニュー・体制整備
  - 新メニュー作成
  - 営業ツール作成
  - 各事業会社の営業担当者への展開
- 各事業会社のリソース状況、拡張・活動計画の共有
  - 機能: 特化型DC、標準・共用型DC、ハイスペックDC
  - 地域: 関東7センター、中部2センター、  
関西3センター、その他5センター  
(合計: 17センター)

### 下期

- 高付加価値化計画の検討着手
  - ディザスタリカバリー
  - グリーンIT
  - シンククライアントDC
  - BPO
  - SaaS化 等
- 新メニューによるクロスセル推進
  - グループ共通キャンペーン

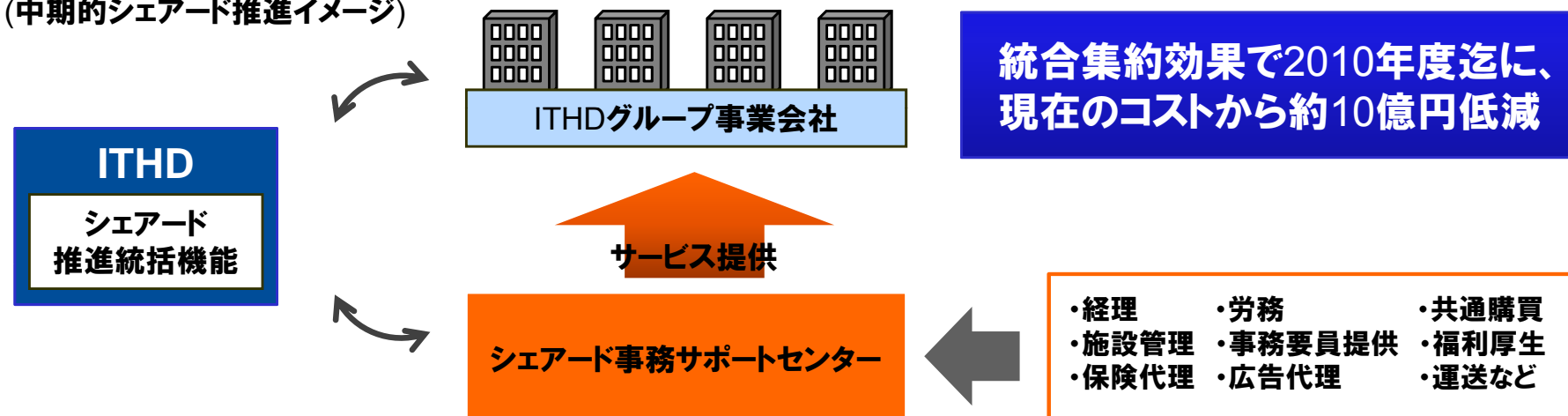
# 重点施策 ～ 品質向上と効率化 ～

## バックオフィス業務のシェアード推進 周辺、重複業務の統合

### 基本方針

グループの本部系業務機能および周辺サービス業務について、内部統制システムの構築に合わせた標準化、スケールメリットを活かしたコスト低減などを目的に、シェアードサービスの推進と周辺重複業務の統合を推進する

(中期的シェアード推進イメージ)



### 施策

上期

下期

- グループ企業の活用によるグループ外キャッシュアウトの削減
- 重複、周辺サービス業務の見直し実施
- 業務の棚卸、対象業務の抽出と標準化、効率化の推進
- 業務システムの構築

シェアードサービスの実施に向けた準備  
(2009年度新会社設立予定)

# 重点施策 ～ 品質向上と効率化 ～

## グループ生産技術戦略

### 基本方針

(中期的な方針)

グループ全体の利益を最大化する、業界トップクラスの生産基盤を作る

- ◆ グループとしての一貫性を保ちつつも、グループ各社の独自性を十分発揮できる基盤
- ◆ 小規模から大規模まで、幅広い分野のプロジェクトに社員の誰もがチャレンジできる基盤
- ◆ グループ会社間で何時でも直ぐに協業でき、高い品質と高い技術レベルの仕事ができる基盤
- ◆ お客様との信頼関係を強固にし、安心感を与えると共に、国際競争力をも高める基盤

今期は上記方針の第一段階として、現状把握とグループ推進体制の構築、優先度の高いテーマへの着手を行う

### 施策

上期

- グループ各社の現状把握と共有
  - 開発現場における課題や要望
  - 生産基盤推進体制の現状と課題
- グループ生産基盤の推進体制の構築
  - 有識者の集約による施策立案の効率化
  - リソースの共有による課題解決の迅速化
  - 効果の高い取組みテーマを優先的に抽出

下期

- 優先度の高いテーマへの着手
  - 品質向上、生産性向上に直結するテーマ  
(品質基準の制定、標準ツールの整備 …)
  - 技術力の強化、人材交流に効果のあるテーマ  
(研修コースの充実化、情報ポータルを活用 …)
  - トラブルプロジェクト防止に繋がるテーマ  
(プロジェクト状況の「見える化」手法の共有 …)
- 競合他社に先んじた新技術の取り込み
  - R&D活動と連携した技術シーズの掘り起し
  - 新技術の実証実験(仮想化技術、IPv6 …)

# 重点施策 ～ 品質向上と効率化 ～ 情報システムの統合

## 基本方針

グループの経営情報を迅速に提供する経営情報システムを実現する

グループ内の構成員の一体感をつくるシステムを実現する

## 施策

### 上期

- **グループ内ネットワークの構築**  
→ スムーズなコミュニケーション基盤の実現
  - ・電子メールの相互接続・TV会議の相互接続
  - ・内線電話の統一
- **グループ内情報共有ができるシステムの構築**  
→ 営業情報・技術情報の共有の実現
- **経営情報システム構築のためのグループ各社の業務システムの調査・分析**

### 下期

- **グループ全体の業績モニタリングシステムの構築**  
→ 会計システムのデータを受けて、グループ全体の計数を迅速に把握・分析できるシステムの構築
- **経営情報システム構築の計画立案**  
→ 会計システム(財務会計、管理会計)を統合する



本資料における一切の記述内容は、ITホールディングスグループ（ITホールディングスおよびグループ会社等）の現時点に関する入手可能な情報に基づき、一部主観的な前提をおいて合理的に判断したものであり、将来の結果は様々な要素により大きく異なる可能性があります。